

◎家畜伝染病の防疫対策にしっかりと取り組もう。  
◎家畜の暑熱対策に取り組むとともに、適切な飼料給与と害虫対策を実施しよう。

## <要約>

### 1 乳用牛 ～乳質・乳成分データのチェック～

- (1) 出荷乳の乳質・乳成分データをチェックし、良質な生乳生産を心がける。特に、体細胞数が増加している場合は、牛の状態を確認し、乳房炎に感染している場合は早期治療に努める。
- (2) 飲水設備は常に清潔にし、新鮮な水を摂取させるほか、鉍塩等は十分な量を設置する。

### 2 肉用牛 ～放牧中の飼育管理～

- (1) ダニが媒介し、小型ピロプラズマ原虫が原因となる小型ピロプラズマ病の発生を防止するため、放牧中は定期的に殺ダニ剤を使用する。
- (2) 初めて放牧する牛は特に注意して看視し、異常がみられる場合には、速やかに退牧させ治療する。
- (3) 窓の開放や換気扇だけでなく、牛舎内の資材は片付けるなどして、風通しをよくする。また、遮光ネットの設置や牛舎内外への散水で牛舎内温度の上昇を抑制する。

### 3 豚 ～肉豚の衛生管理～

- (1) 本県では、これまで野生イノシシにおける豚熱感染が14件確認されたことから「飼養衛生管理基準」の遵守を徹底する。
- (2) 繁殖豚の過肥に注意しながら、繁殖周期の各段階に合わせた飼料を給与する。
- (3) むれ肉等の発生を抑えるために、豚舎内の温度管理に注意する。

### 4 鶏 ～衛生・飼育管理～

- (1) 関係者以外の農場への立入りを禁止し、鶏舎出入口での消毒や鶏舎ごとに専用の衣服・靴等の着用を徹底する。
- (2) あすなろ卵鶏の飼育は、鶏舎構造、飼育密度に注意し、発育段階に応じた採卵鶏用配合飼料を給与する。

### 5 草地・飼料作物 ～草地管理～

- (1) 1番草の収穫は、開花始期までに終わるよう、天候を見極めながら刈取作業を進める。
- (2) 2番草の収量を確保するため、1番草刈取後は速やかに追肥する。
- (3) アワヨトウの早期発見に努め、多発した場合、刈取可能な草地は直ちに収穫する。

### 6 農作業者の熱中症対策

これからの暑い季節は、農作業中に熱中症になるリスクが大きくなるため、こまめな休憩と水分・塩分補給を行い、立ちくらみやめまい等の熱中症の疑いを感じたら、作業を中止し、体調の回復に努める。

## 7 ツキノワグマの被害防止対策

- (1) 1人での作業をできるだけ避け、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に務める。
- (2) 農地周辺の藪を刈払って見通しを良くすることで、クマの隠れ場所を無くし、クマが農地に近づきにくい環境を整える。

## 8 農業保険

農業保険（家畜共済・収入保険）などに加入し、様々なリスクに備える。

報道機関用提供資料	
担当課 担当者	畜産課 経営支援グループ GM 梶田 昌裕
電話番号	直通 017-734-9496 内線 4814
報道監	農林水産部 次長 内山 真人 内線 4966